

Kagoshima Nursing Federation



れんめい

Vol.

78

MAY

2024

- 鹿児島県看護連盟広報機関紙れんめい -

# 能登半島地震 病院支援

輪島市への看護師派遣

小林 香織

## ☑ 議員活動

石田まさひろ 参議院議員

友納りお 参議院議員

## ☑ 研修報告

鹿児島県看護連盟リーダー - 研修III

意見交換会

九州ブロック看護管理者等政策セミナー

<https://k-kango.net/>

# 新緑の候、 益々ご健勝のことと お慶び申し上げます



鹿児島県看護連盟 会長

吉崎 和子

KAZUKO YOSHIKAZI

昨年度は、鹿児島県看護連盟の活動にご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

新年度を迎え、皆様方の職場には、新しい仲間が入職され、様変わりしたのだらうとお慶び申し上げます。迎える側は、さまざまな準備をし、新入職の方々が一日も早く慣れてもらうための対策（工夫）をしておられることでしょう。皆様のご健闘をお祈り致します。

さて、令和6年は1月に能登半島地震に見舞われ、3ヶ月経過しても、なかなか進まない復興のため、多くの方が不自由な生活を余儀なくされていらっしゃると思います。心からお悔やみ申し上げます。また、支援活動に活躍されている皆様へ心からの敬意と感謝を申し上げます。

今回の広報誌に済生会川内病院の支援活動の状況を掲載させていただきました。早い時期に活動に出かけられ、想像を絶することがあったことでしょう。お疲れ様でした。

さて、令和6年度の鹿児島県看護連盟の活動ですが、令和6年6月22日（日）の通常総会で承認さえますと、本格的に活動して参ります。令和3年度から、減少傾向の一途をたどっている会員数ですが、令和6年4月11日現在2192名になってしまいました。4月に入職された方々に頼るしかありません。数は力です。今年度も支部活動に3本の柱を掲げました。ネットワークの強化・基礎研修の充実・会員の増加です。昨年度からの継続課題として今年度も成果がでる活動を計画しています。医療・看護を取り巻く環境はますます多様化複雑化となり、それに加えて、人材不足が拍車をかけています。日看協も「未来を担う看護人材の確保」を重点課題として掲げています。トリプル改定・物価高騰等も加わり、安心して仕事ができる状況を確認するために声を上げていきましょう。

令和6年度はステップの年。令和7年度、組織代表を国政の場に送り出す重要な年になります。皆様のおひとりお1人の力を結集して目標達成しましょう。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



東洋羽毛九州販売株式会社

〒890-0063 鹿児島県鹿児島市鴨池1-64-25ウイング鴨池1-B

鹿児島営業所

☎ 0120-881-125



生活に潤いと豊かさを求める世界の人々に

取扱商品

- アコヤ真珠 ● ベビーパール
- 黒真珠 ● 南洋真珠（白・ゴールド）



イッシン iS パール (同)

〒862-0920

熊本市東区月出 8丁 目3 -52

☎ 0120-32-2020

ip erna by イッシン

営業時間 9:00~17:00 定休日 日・祝日



# 能登半島地震 病院支援



輪島の看護師たちとの1枚



WOTA



り組むことができました。他チームとの連携の大切さを感じました。処置室などには「WOTA」という一度使用した水を浄化して利用するものが設置されており、水不足・下水道が使用できない中とても助かりました。

## 災害関連死を防ぐための 継続した介入

学校や公共施設などでの「一時避難所」で生活している被災者が多く、昼間の救急外来は発熱・コロナ感染の患者様が多かった印象です。避難所巡回している医師より救急依頼あり搬送された患者様がいらっしゃいましたが、定期薬を服用出来ておらず、褥瘡も発生されており、災害関連による疾患が増えてくる時期なんだと実感しました。今後「慢性期」に入るため、災害関連死を防ぐためにも、継続した介入が必要になります。長期避難生活により免疫力が低下し、感染症の流行やストレス障害が増加する時期です。上下水道が使用できないとさらに感染症増加や復興の遅れになると考えます。被災地の医療体制の整備等、長期支援ができることを願っております。

### 小林 香織

看護師・病棟勤務  
日本 DMAT 災害支援ナース  
2024年3月 長崎大学大学院医歯薬総合研究科  
災害・被ばく医療保健・看護コース卒業

東日本大震災をきっかけに自分に出来ることはないかと、災害看護を学んでおります。勤務する病院が原子力災害拠点病院に指定されたことより、被ばくについての知識・教育について学びたいと思い、長崎大学大学院にて災害・被ばくを学ばせていただきました。今後は病院や学生、地域に学んだことを普及できる活動ができるようにしていきたいと思っております。

## 「亜急性期」の看護師派遣

今回、厚生労働省から看護師派遣の要請を受けて、1月28日から1月31日まで病院支援に何ってまいりました。災害サイクルという「亜急性期」の段階で、新たな外傷患者は減少する傾向にあり慢性疾患・持病の悪化の対策が必要な時期です。

金沢から輪島市までの道路は液状化・陥没している場所が多く、建物も全壊・半壊している所や、行方不明者の捜索をしている消防車を多数見かけました。活動中のラインラインは、電気・携帯電話は使用できませんでした。上下水道使用不可だったため、洗面・シャワー等は出来ず歯磨きは20℃位の水で含嗽しました。院内の駐車場に他県からのトレーラーが2台設置されており、綺麗に保たれておりました。しかし、1月の輪島市はとても寒くトイレに行くのを躊躇しました。

## 他チームとの連携

私は到着日、救急外来の夜勤担当になりましたが、DMAT隊が救急外来の配置場所や業務手順などを表に作成して下さっており、スムーズに業務に取り

ら勤務している方や、子どもを他県の親戚に預けて勤務している方等、貴重なお話を伺うことができました。緊張状態の中、家族・家の不安がありながらも、仕事をするのは心身に負担がかかると思います。その為にも継続した支援が大切だと感じました。

被災した方々へお見舞い申し上げますと同時に、一日でも早く復興出来ることをお祈り致します。





参議院議員

友納りお

RIO TOMONOH

ともうりお official site  
<https://tomonoh.net/>

ぜひ  
Check

## 第 213 回 通常国会開会と予算委員会



1月26日に第213回通常国会が開会しました。能登半島地震で被災された皆さまにお見舞い申し上げますとともに、復興を推し進めるためにも、令和6年度予算と各法案をしっかりと審議してまいります。

TVでご覧いただいた方もいらっしゃると思いますが、3月4日、予算委員会で総理ほか、各大臣に質問を致しました。テーマは「被災地の今後の医療体制」、「夜勤の看護職員確保対策」などです。

総理から「夜間看護職員配置加算の評価を含む看護職員の確保をしっかりと取り組むこと」、先の診療報酬改定において「全ての看護職員等を対象として物価高に負けない賃上げの実現」という力強い回答をいただきました。その他にも「災害時の福祉の支援」、「職場における子育て支援」、「こども・子育て政策」、「産後ケア事業」、「こども誰でも通園制度」、「母子保健DX」、「国際仲裁の活用推進」、「終末期医療のあり方」、「学校における体罰及び不適切指導」、「いじめ重大事態の調査に係る第三者委員会」について質問致しました。

当日に質問時間の長さが決まるという新人には難しい状況でしたが、先輩や同期の温かな声援に背中を押していただきました。皆さまも応援ありがとうございました。

国会議員となって期間が経過する中で、少しずつ新たな役割を頂き、初めてのことにチャレンジする毎日です。この在任期間の中で訴えてきたことが少しずつ形になってきているものもあります。

看護の対策を実現するには何をすべきか、しっかりと考え、今後の活動を続けて参ります。引き続きご指導をよろしくお願い致します。

委員会の質疑の様子は右記 QR コードから



参議院議員

石田まさひろ

MASAHIRO ISHIDA

石田まさひろ  
チャンネル



## 雇用調整や就業支援への 関わり

鹿児島県看護連盟の皆様、日頃より多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。

3月7日予算委員会にて、人口減少地域における看護師不足への対応や人口減少社会に不可欠な看護職員の生涯教育システムなどを資しました。特に、看護師不足対策においては、地域全体の雇用調整や就業支援への行政の関わりが不可欠であり、ナースセンター自らが雇用した看護職員を危機的な医療機関へ派遣する事業の検討を厚生労働大臣に訴え、「派遣事業への参画も含めてナースセンターの役割の充実強化を検討していく」と回答を得ました。しっかりと議論を前に進めてまいります。

引き続き、現場の声を受け止め、看護連盟・看護協会と連携しながら、看護職が「今日も良い看護ができた」と実感でき、看護職が報われる環境づくりのために、引き続き尽力してまいります。

鹿児島県看護連盟益々のご発展と、会員の皆様のご健勝を心より御祈念申し上げます。







REPORTS 01

鹿児島県看護連盟  
リーダー - 研修Ⅲ

～看護政策実現のために、組織代表を国政に送る～

2023/12/09 土

開催にあたり吉崎会長より石田参議院議員に対して、47都道府県争奪戦が始まっており、生の石田参議院議員を研修会にお迎え出来たことへの感謝の言葉がありました。鹿児島県として3つの柱を立て、それに向かい突き進むしかありませんが、会員増を果たす事は大きな力になると結びました。

講演1は「連盟を正しく理解し仲間を増やす仕組み作り」について、鹿児島県看護連盟青年部副委員長の福元さんが講義してくれました。看護協会と看護連盟の役割についてわかりやすく説明して下さい、看護師一人一人の力が、看護制度改革と労働条件の改善のために、強力なる政治活動を推進することに繋がると熱く語ってくれました。

また、一人一票は小さいが、その一票が私達の代表として政治の場で活躍する議員の大きな後押しとなり、看護の代表の力を見せつけることにもなるので、投票数は大きく活動に左右されることを話して下さいました。

そして、自分が話すよりも、看護連盟が出している連盟チャンネルの動画を是非見てほしいとの事です。大変よく出来ている動画で観ることで、より連盟活動に賛同頂けるとの事でした。この報告を読まれた皆様も是非、連盟チャンネルの動画を見てほしいと思います。

更に講演2では、石田参議院議員の話がありました。現在、看護師の処遇改善として本当に尽力を尽くして下さい、診療報酬改定に向けても動いております。

コロナ禍で、多くの方々が医療従事者特に、第一線に対応する看護職に対して大きく評価している結果であること話をしました。私達の代表として大きな役割を果たして下さいと思っています。また、少子高齢化に伴い、人生100年の時代です。人口は更に減少していく中で、一人の役割が増えていく社会となります。多様な働き方をどんどん実施していかなければならないこと、看護師として一生成長する仕事であり、80代でも90代でも看護師としての役割があり、出来る仕事がある。日本看護協会が生涯学習支援を掲げている事は、質を追求し続け一生学び続ける大切さを述べていると話されました。また、今まで当たり前と思っていた交代性制動は、時差勤務となることからホルモンバランスが崩れ、心身に影響を与える勤務であるとのことでした。

海外へ旅行等で行くと時差で感覚がおかしく感じる場合がありますが、それを看護師は常に当たり前に行っている。この交代性勤務を虐待とみなし、禁止している国が既にいくつも教えて下さっていました。

私達や若い世代、未来の看護師達が楽しく働き続けられるためにも、大きく変わっていかねばならない転換期にきているのかもしれない。

生の石田参議院議員の話を聞くことで力を頂いたような気がします。全国170万に近い看護師の団体ほど、大きなものではありません。免許がある限り看護師としての役割を果たせる事を強みに、皆様で看護師の議員を支えて行きましょう。

前永 和枝 (第一支部支部長) = 文・報告

REPORTS 02

鹿児島県の看護と政策を  
考える意見交換会

2023/11/25 土



私達の生活全般に大きく影響をもたらしたCOVID-19感染症との関わりも4年余りの時間を経て防御から共存へと変化し、2023年5月8日に5類感染症へ位置づけられた以降も医療・介護領域ではまだ不完全ながらも世の中は確実に日常を取り戻しつつあります。

そんな中、コロナ禍でもたらされた閉塞感からの脱却をめざし、テーマを『未来の看護に向けた職場環境を考える』看護の専門性を発揮するために』と掲げ、令和5年度鹿児島県の看護と政策を考える意見交換会が開催されました。

特別講演Iでは、リモートで参議院議員・石田昌宏先生に出演していただきました。高齢化が加速する日本において看護の環境も激変し、高齢化、複雑化、高度化、医療安全対応など人手不足がより深刻化していることをはじめ、看護職のおかれている現状や抱える多くの課題等詳細に示されました。医療崩壊をも招きかねない危機的状況の中、看護職代表としてそれらを解決するための国政への働きかけや国会の動向

き(診療報酬改定の動向)などご講話いただき、石田先生のますますのご活躍に期待を寄せるとともに、私達現場は看護の質を如何に担保し・上げていくかを考えていかなければならないと痛感しました。

特別講演IIでは、鹿児島県議会議員・宝来良治先生より県政活動報告として、鹿児島県における看護職員確保対策および看護人材確保計画の概要について講和されました。看護の魅力発信や次代を担う看護人材養成、離職防止・定着推進、看護の質向上などの取り組みにおいては、「現場の声をドンドンあげてください」という心強い言葉もいただき、参加された看護職の皆様のおみになったのではと思った次第です。

看護職の労働環境・業務改善等に関する事前アンケートでは、看護職の処遇改善、人員不足、労働環境改善・タスクシェア/シフトの難航など施設差は多少あるものの、まだまだ現場の抱える状況は厳しいと感じられる結果となっていました。

また、医療現場からの情報提供としては、鹿児島県ナースセンターの役割と


活動内容、鹿児島大学病院看護部での働き続けられる職場環境改善の取り組み、パルランド病院の多様な人材育成(外国人技能実習生受け入れ)の3施設からの情報であり、それぞれの取り組み内容は他施設の参考になるものが発表されました。

最後の時間は、鹿児島県下で活躍されている県議・市議の方々と看護職との意見交換を行い、どのグループも和やかな雰囲気のもと活発な意見が飛び交う姿が見られました。


それぞれの施設背景・状況は多少異なっても看護の現場が抱える課題は共通するものが多く、互いの意見や情報の中から自施設の改善策を見いだせる部分もあったようです。また、現場の困りごとや悩みを議員の方々に直接伝え・理解していただく機会となるこの場は、未来の看護職の働きやすい・働き続けられる環境づくりにもつながっていく有意義な時間であったと思います。

八木 美智代 (昭南病院) = 文・報告

## 令和6年度看護連盟会員を募集しております。




<b>正会員</b> 看護職の方	
日本看護連盟会費	5,000円
鹿児島県看護連盟会費	3,000円
合計 年間	8,000円



**賛助会員**

賛助会員年会費 **1,000円**

鹿児島県看護連盟の活動に賛同いただける方はどなたでも加入いただけます。



**学生会員** 年会費無料

看護師、保健師、助産師又は准看護師の資格を得るために学ぶ学生で、看護連盟の主旨に賛同していただける方

### 申し込み方法

入会手続きや申込み書類のご請求は、事務局へ電話・FAX・メールにてお問い合わせください。

### 会員情報変更

住所や所属施設など会員情報に変更がある方につきましても下記までお問い合わせください。

### 問い合わせ先

#### 鹿児島県看護連盟事務所

〒892-0816 鹿児島市山下町9番31号 電話 (099) 219-5334  
第一ボクエイビル203 FAX (099) 219-5336

Eメール：office.kagoshima@kango-renmei.gr.jp

彩筆

COLUMN

畑中 勇二=文

大は小を兼ねるとは言われていますが、過剰は如何なる場合においても良いとされるべきではありません。仕事、食事、買い物、これら一切において「過剰」が慣習となっていませんか。物質的な財が増したとしても、心が満たされることは保証されたりしません。幸せへの近道は、所有や比較から解放されることにあります。健康や自由、愛情にも目を向けるべきであり、金銭では得られない心の充実を求めることが大切だと感じます。「ほどほど」を意識しましょう。仕事においても、買い物や食事の際にも、一旦立ち止まり、スピードを落とすことで、ほどほどの状態を保つことができます。誰かと分かち合ってもいい。減らし、さらに減らし、分かち合うことで、豊かさが生まれるのです。



佐賀県看護連盟担当でHOTEL はがくれて開催されました。鹿児島県から10名参加。

## REPORTS 03

### 2023年度 九州ブロック看護管理者 等政策セミナー

2023/11/16-17 **木 金**

#### 目標

- 1). 看護管理者・看護教育者として看護を取り巻く環境を共通理解する。
- 2). 日本看護協会の看護職の処遇改善に向けた取り組みを理解し、施設における処遇改善に向けた働きかけを支援する。
- 3). Z世代の会員確保に向けた方策を見出す。

佐賀県看護連盟の内田泰子会長のご挨拶、九州ブロック協議会の久米春代会長のご挨拶で始まりました。日本看護連盟高原静子会長が「看護の未来を考える」と題して講演されました。次に日本看護協会常任理事の木澤晃代氏が「日本看護協会の重点政策と重点事業」について講演され、参加一同認識をあらたにしました。休憩をはさんで「現役世代の急減、DXの進展により看護はどう変わるか」というテーマで、東京医療保健大学医療保健学部医療情報学科教授、瀬戸僚馬先生の講演があり、これからの看護界の課題を知ることが出来ました。その後、参議院議員石田昌宏先生が「処遇改善に向けた取り組みと課題」につい

てビデオ講演され、先生の国政での活躍を知る機会となりました。2日目は、参議院議員友納理緒先生によるビデオでの国政報告から始まり、新人議員でありながら、活躍されている様子がひしひしと伝わってきました。次に東京大学医学部付属病院の企画情報運営部特任助教、窪田和己先生が「青年部の政治参画に向けた課題」について講演され、その後のセミナーの動機づけになりました。日本看護連盟青年部活性化委員会前副委員長、酒井裕子先生が「Z世代の会員確保に向けたアプローチ」と題して講演していただきました。

九州8県の皆さんが一番悩んでいる会員確保に関するテーマをとってもわかりやすく説明して下さい、その後のグループワークをするにあたり、とても参考になる内容でした。グループワークで「青年層の会員確保に向けた課題」で討議しました。11のグループが60分間、活発な意見交換がされ、熱気にあふれていました。これからの各県の各支部の活動の参考になったことは言うまでもありません。特にZ世代の皆さんへの取り組みが令和6年度の活動の要になります。

吉崎 和子（鹿児島県看護連盟）=文・報告



## 編集後記

EDITOR'S NOTE

令和6年がスタートしてからいろいろなことがありすぎて、体や心が追い付かないような感じがするような毎日です。今回の特集では災害支援に焦点を当ててみました。

自分たちに今、何ができるのか考える機会になればと思っています。

貴重な体験を共有していきましょう。

今年度も研修等の企画がありますので、興味を持てるように発信していきたいです。

広報委員：有木・森田・畑中